



ワムタウン広場

WAM Town Open Space !

発行 ワムタウンネットワーク推進協議会
〒359-1152 埼玉県所沢市大字久米532番地1
TEL 04-2997-5510 FAX 04-2992-5544
http://www.wam-town.jp/ E-mail:koho@tl-wam.or.jp

協力 医療法人啓仁会
医療法人昭仁会
社会福祉法人栄光会
医療法人社団紫雲会

WAM TOWN

3月

第94号 2016年/平成28年3月1日(火)

就任の挨拶

医療法人啓仁会 平沢記念病院 (埼玉県所沢市)



院長 井川 真理子

平成28年3月1日付けで平沢記念病院の院長に就任した井川真理子です。

名古屋市立大学を卒業後、東京医科歯科大学、正慶会栗田病院(川崎市)、東京都老人医療センター(現:東京都健康長寿医療センター)を経て、平成15年4月に平沢記念病院に入職、平成20年5月には副院長に就任しました。

前任の平澤秀人名誉院長とは、東京医科歯科大学の睡眠研究グループからの縁で、30年近く一緒に研究と臨床に携わらせていただきました。この

度、平澤名誉院長の後任として、院長という大役を任せられ、身の引き締まる思いです。

精神科の診療に携わって感じることは、人間はストレスに立ち向かう際、いかに自分を変化させていかが鍵だということです。

このことは個人だけでなく組織にも当てはまることだと思います。当院に関しては、院長交代という事をきっかけに、病院をよりよい方向に改革していけたら良いと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。



副院長 河本 勝

平成27年11月から平沢記念病院の副院長に就任しました。

当院は精神科病院として15年目に入っています。目の前の患者さん(外来・病棟)の治療・ケアに取り組みつつ、平沢記念病院の長所を発展させ、問題点は改善していけるよう、新・井川院長のもと多職種チームで行動していきたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

本誌を手にされた地域の皆様は当院にどのような印象をお持ちでしょうか。住民のかたがたによく知られていない部分もあるようで、さらなる情

報発信が必要と思われます。

クリニックと比べて精神科病院の多くは「統合失調症」を主な対象としていますが、当院では高齢者を対象とした「認知症」ならびに「うつ病」等の鑑別診断・治療を得意領域の一つとしています。また、外来診療を活発に展開している点も当院の特徴です。平澤名誉院長が重視してきた「診療の質の高さ」を維持しつつ、地域ニーズに対して当院が得意領域を生かしてより一層貢献していけるよう努めてまいりたいと思っております。

ロイヤル・ワム・タウン 写真館

vol.2

社会福祉法人 栄光会 ロイヤルの園居宅介護支援事業所 (埼玉県所沢市)

主任介護支援専門員 千葉 昇二

すべてが重なりあう稲村ヶ崎。このサンロードに引き付けられ日没まで釘づけでした。待っていると何かに出会えました。

露出計の無いカメラなので、手持ちの露出計で大まかな露出を計り明るさに合わせ、絞りとシャッター速度のあんばいを大まかに決めました。

湘南は何度訪れても飽きない場所です。浜辺が

劇場のようにドラマが繰り広げられます。滞在時間2時間という制限の御陰で、そのリズムをつかんだような気がします。

魅力あふれるモデルさん(友人)あつての写真です。たとえ、名も知らぬ通りすがりの人でも敬意と愛情がなければ、つまらない写真になってしまうと最近感じています。

期限切れフィルムと廃盤のフィルムに運を任

せ、内蔵の露出計が古く大雑把なので、気持ちプラス補正して撮影したフィルム。現像が出来上がって来たら、とても楽しいシーンが写っていました。「自分が見て楽しい」「ワクワクする」そんな気分になれました。

ネガに写る時系列で見てゆくと、沈みつつ行く夕陽とそこに集まる人々の動きがとても面白かったです。



稲村ヶ崎



Sea of fascination (魅惑の海)

稲村ヶ崎

2014.10 撮影
場所: 稲村ヶ崎 (神奈川県)
カメラ: Ernst Leitz LeicaD III (1933~1939年製造)
レンズ: Ernst Leitz Elmer5cmf3.5 (Red Scale) (1952~1957年製造)
フィルム: Kodak ULTRAMAX400
露出: F5.6 ss 100/1 (推定)、露出計使用

80年前のカメラと60年前のレンズに廃盤フィルムで撮影しました。

Sea of fascination (魅惑の海)

2015.1 撮影
場所: 片瀬西海岸 (神奈川県)
カメラ: OLYMPUS OM-1
レンズ: OLYMPUS Zuiko35mmF3.5
フィルム: FujiFilm neopan presto400 (白黒)
露出: F11、ss 125/1
モデル: 友人

2016年 三鷹ロイヤルの丘 節分行事

医療法人啓仁会 介護老人保健施設 三鷹ロイヤルの丘 (東京都三鷹市)

この記事を書いている現在は2月に入り、1月が過ぎました。暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続く、ここ三鷹ロイヤルの丘も「今日は寒いですね」という挨拶が恒例となっています。乾燥し、寒い日が続く時期は風邪や感染症に気をつけていかなければいけませんね。職員全員気を付けて日々過ごしています。ただ、それでも窓から入る日差しは暖かく、窓際で日向ぼっこをするご利用者も少なくありません。

さて、去る2月3日は節分でした。節分とはといいますと、それぞれの季節がはじまる節目の日ということをご存じだと思います。以下サイトから引用いたします。

では、どうして立春の前日だけを節分と呼ぶようになったのでしょうか？立春の前日の節分に重きが置かれるようになったのは江戸時代以降のこと



事務員による赤鬼

です。旧暦のころに「立春正月」という言葉がありました。これは、冬から春になる時期を1年の境と考えたところから来ています。春が始まる立春の日を1年の始まりとして特に尊び前日の節分の日を、大晦日と同様に重要な日と考えていたのです。

そしてなぜ節分に豆をまくようになったかという、古来、日本では、大晦日に、中国から伝わった風習である「追儺(ついな)」という厄払いの行事が行われていました。追儺の行事は、俗に「鬼やらい」「なやらい」「鬼走り」「厄払い」「厄おとし」「厄神送り」と呼ばれ、疫病などをもたらす悪い鬼を追い払うというものでした。追儺の行事が最初に行われたのは、文武天皇(奈良)時代です。当時は宮中において、陰陽師らにより、執り行われていました。その行中で、「鬼の姿をした官職の者を災害や疫病などの災いに見立て、黄金の仮面を被り矛や盾を持った者が、豆を撒き散らしながら悪魔悪鬼を追い払う」というものがありました。この儀式を「豆うち」といい、後の「豆まき」になります。室町時代になると、豆まきの風習は庶民の間にも広がりしだいに定着していきました(いい日本再発見より引用)。

三鷹ロイヤルの丘でもご利用者の今年1年の健康を祈り、節分イベントが開催されました。前年と同じく、豆代わりに新聞紙を丸めたものを用意しました。そして、鬼役の職員が各フロアを回ります。前年も赤、青のジャージに鬼のお面という職員によるユーモアあふれる鬼がやってきましたが、今年も職員による自信のある鬼になりました。

各階順番に鬼が回ってきて、あらかじめ作っていた新聞紙をぶつけていきます。皆さんの風邪や病気、災害をやっつけるように日頃の様子からは想像できないほど力強く鬼に豆替わりの新聞紙のボールをぶつけていきます。遠投が得意な方



介護職員による青鬼

もいらっしゃって、その的中率に驚かされるばかりです。ある方はいつもおとなしく過ごされていますが、とても激しく豆を投げつけていました。

2階のフロアでは皆さん、1つのユニットに集まり、大勢で鬼を迎え撃ちました。鬼以外にも福の神もいます。福の神は大きな籠を持っており、その籠に入ると、福が舞い込むことになっています。福の神の籠にも皆さま上手に入れていました。鬼は予想以上の勢いにびっくりし、退散していきました。

このようにたくさんの方が集まり、みんなで一つの事をするというのは、とても盛り上がり、活気が出て、とてもいいことだなあと感じます。

節分のイベントをすることにより、無病息災、皆さんがより健康に日々過ごされることをお祈りしております。そして、鬼役、福の神役の職員の方々、お疲れさまでした。来年も楽しみにしております。

リハビリテーション室 リハビリ助手 月井 麻美

雪の日の新年会

社会福祉法人 栄光会 デイサービスセンター さいたまロイヤルの園 (埼玉県さいたま市)

デイサービスでは毎年1月に新年会を企画しています。ボランティア様にもお声かけして、ご利用者に楽しんでいただけるようなプログラムを用意しています。ただ、一番の心配ごとは、行事当日の天気予報が雪となっていることでした。そのため、当日は早起きして外を見ると、一面に銀世界が広がっていました。まれに見る大雪のため急いで支度を済ませ、施設に向かいました。積雪は15cmを超えるところもあり、デイサービスが中止になるのではと不安が頭を駆け巡りました。ご利用者がこれだけ楽しみにされている行事でしたので、なんとしても成功させたいとの思いが強くなりました。みんなの願いが通じたのか雪の降り方が穏やかになり、安全に配慮し時間を遅らせて実施することになりました。雪がちらつく中、楽しみにされているご利用者を一人ひとりお迎えに行き、全員が無事に施設に到着することができました。悪天候にもかかわらず、お休みされる方はいませんでした。

大久保マジッククラブの方には、マジックショーと南京玉すだれをご披露いただきました。目の前で繰り広げられるマジックに驚きの声上がり、不思議そうな表情で見入っているご利用者の姿がとても印象的でした。南京玉すだれは、口上の声



施設長の熱弁

も高らかに見事なすだれさばきで、ご利用者だけではなく職員までも楽しませてくれました。

職員も全員でコスプレ衣装を身にまとっての綱引き相撲を行いました。土俵で真剣に向かい合い、もがく姿にご利用者からは大笑いと歓声があがりました。普段あまり表情を表に出さない利用者も、満面の笑みを浮かべて大きな声で声援を送っていました。出演いただいたボランティアの皆様の活躍で、ご利用者と楽しい時間を共有することが出来ました。

まだまだ寒い季節が続きますが、たくさん笑うことで身体の免疫力を上げて、今年も楽しく充実した生活を送っていただきたいと思います。来年



綱引き相撲



笑顔があふれていました

の新年会も、今日のメンバー全員でご参加いただけることを楽しみにしております。

介護職 工藤 亜紀子



今年も節分がやってまいりました

社会福祉法人 栄光会 特別養護老人ホーム ロイヤルの園 (埼玉県所沢市)

2月3日は節分という事で少し早いのですが、特養ロイヤルの園でも1月31日に豆まきを行いました。年に一度しかない節分の日という事で、利用者様はいつもと少し違った様子です。豆をまく事を楽しみに待ってられる方、そわそわして待ちきれないという思いの方、今年も無病息災を祈らなくてはと意気込んでいる方等、たくさんの方が見受けられました。

ではここで節分に何故豆まきを行うのかご存知の方も多いたと思いますが、簡単にご紹介させていただきます。節分とは文字からも読み取れるように、各季節の始まりの前日の事を指し、季節を分ける日の事を言います。では何故節分に豆まきをするのでしょうか。昔は季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられていて、季節が始まる前に邪気を払う為、追儺という宮中行事が行われていたそうです。追儺は鬼やらいとも呼ばれており、その行事の豆打ちが豆まきのルーツとも言われています。豆まきには魔目(まめ)を投げつけて魔を滅する(魔滅・まめ)という意味や、穀物に魔除けの呪力がある(昔は豆以外にも小麦、米をまいていた)という由来や、鞍馬山の鬼が都を荒らしに来た時に炒り豆(大豆)で、鬼の目をつぶしたという故事伝説からの由来と、何個かの説があるそうです。では最後に鬼についてお話させていただきます。鬼の言葉の由来は「陰」「隠」という言葉から来ています。この「陰」「隠」とは目に見えない邪気、この世の物とは思えない物の事を指し、昔は災害や疫病等の災いは鬼の仕業だと考えられていました。つまりその鬼を追い払う豆まきは、無病息災を祈るといふ大事な行事という事です!

そんなこんなで豆まきの歴史を皆様と一緒に学び、いつものように昼食を召し上がった後、司会進行役よりこの後鬼が来るかもしれないので皆で準備をしませんかのご提案がありました。という事で職員、利用者様全員で鬼退治にむけて声出しの練習を開始します!「鬼は一外!福は一内!!!」皆様とても大きな声です。豆まきはまだ始まっていませんが、皆様気合の入ったお声をあげられていました。これなら本物の鬼が来ても、桃太郎と同じ様に、鬼退治が出来るなと感じさせられました。そう一人で勝手に解釈していたら、いつの間にか鬼の登場です!!赤色と緑色のいかにも手強そうで、絵本に描いた様な二人組の鬼です。鬼達は大きな声を出し利用者様を脅かしにかけます。「ウオーッ!!!」と大きな声は迫力満点!太鼓をド



記念撮影は笑顔で

ンドン鳴らしながらフロアを動き回ります。

しかし、鬼が来る事に備えて声出しの練習をしていた皆様にとっては屁のカッパです。準備万端で迎え打ってやると言った所でしょうか。涼しい顔をしており鬼に怯む事は全くありませんでした!職員も予め鬼が来るという事で、準備してあった豆(たまごボーロ)を皆様に配ります。そして、利用者様全員で鬼に豆を投げ始めました。普段は大人しい利用者様もせっせと鬼に向かって豆を投げています。最初は勢いが良かった鬼達も想像以上の豆攻撃を受けたのか、徐々に勢いを失っていきます。その後ついに観念したのか、土下座をし「すいませんでした〜。もう悪さをしませんのでどうかお許しを」と涙目ながらお願いして来ました。

司会進行役より「かわいそうなので皆さん許してあげますか」とお尋ねした所「許してあげましょう」とのお声がたくさんでした。鬼があまりに弱すぎたのか豆(たまごボーロ)を食べる事に集中されていた方もいらっしゃいました。また、「私は鬼なんかには負けないわよ」と鬼が近づいて来ても平然とされている方もいました。一方で鬼達は利用者様皆様に完敗。疲れ切っていた様にも感じました。それもそのはず。利用者様以上に職員が全力で投げつけていましたからね!鬼達も予想はしていなかったでしょう。そんな鬼達も豆攻撃を受け改

心したのでしょうか、鬼のお面を取る事に。そこにはベテラン職員と新人職員の人間に戻った顔が見えました。これには皆様「あの人が鬼だったの!」「あら。いつもお世話してくれる人にたくさん豆を投げちゃったわ」と笑いが起きました。

そして豆まき終了後は鬼達と写真撮影のお時間となりました。改心した鬼達は皆様の所に駆け寄り、バッチリと写真を撮りました。利用者様の皆様もにっこりと笑われ、普段よりも何倍も素敵な笑顔を我々に見せて頂けたと思います。そんな和やかな空気の中で、ある利用者様からは「あの二人が一生懸命に鬼を演じてくれたからとても楽しかったよ」「準備をしてくれた皆さんありがとう」そんなお言葉を頂きました。我々職員としては非常に嬉しいお言葉を頂けたと思います。一生懸命準備して来てよかったな。「ありがとう」って本当にみんなを幸せにする言葉だな。と改めて感じる事が出来て良かったです。また来年も皆様と一緒に節分をご一緒出来るの良いなと思いました。これからもご利用者の皆様に笑顔をお届け出来る様、私自身より一層業務に励みたいと思います。そして利用者様の皆様が今年1年健康でありますように。そう心から願っております。

生活相談員 中山 龍



鬼役の二人



降参二人組

家族団らん 楽しい誕生日

社会福祉法人 栄光会 特別養護老人ホーム かわぐちロイヤルの園 (埼玉県川口市)

当施設では、毎月誕生日レクを催していますが、12月4日の『ご家族を交えたお寿司でお誕生日レク』では、お誕生日を迎えるご入居者にいつもとは違う特別なことをしようと考えていました。今までの施設でのお誕生日企画では外食やユニットでケーキを囲んでお誕生日をお祝いする企画が多ありましたが、今回お誕生日を迎えるお二人のご入居者は外食するという事は体力的になかなか難しく、ケーキを囲んでのお祝いは今年おこなってきた……、施設内でできることで楽しめて、かつ、記憶に残ることができないかとユニット職員全員で知恵を絞りました。まずはお二人から好きな事や好きな物の聞き取りをし、その中から「マグロ」「刺身」といったキーワードをいただきました。そんな中、目に留まったのがお寿司屋の折り込み広告。広告の中には美味しそう「これぞマグロ!!」が掲載されており、チラシ寿司の具も他のお寿司屋より細かく刻まれ、このチラシ寿司ならお二人の食形態にも対応できて、施設での毎日とは変わり、お二人が希望されていた「マグロ」のお食事が用意できると思い、企画を練っていくことにしました。そこからは発想がどんどん浮かんできて、「お食事の内容がいつもと違うなら、場所もいつもと異なる雰囲気で行いたい。会議室はどうだろう」、「広い部屋が使えるから、職員だけではなく、

ご家族も招待し盛大なパーティーにしたい。」等々と意見が出て、『ご家族を交えたお寿司でお誕生日パーティー』が立案されました。

ご家族に連絡したところ、両ご家族とも参加できるということで、人数を考えてちらし寿司を注文し、会場のデコレーションとご入居者へのプレゼントをどうするか思案しながら当日を待つことになりました。

当然お二人にはサプライズ誕生日会なので、「ご家族が来る」こと、「マグロ(チラシ寿司)が食べられる」こと「プレゼント」は秘密でした。

当日は、会議室の机をテーブルクロスで覆い、その上にお花を飾り、壁をキラキラしたモールで華やかにするなど、パーティールームの雰囲気を出しました。会場の準備が終わると職員の気持ちも高ぶり、ソワソワしてきます。そして、予約していたチラシ寿司の実物を確認するとびっくり、広告と見比べても遜色ない色鮮やかな美味しそうなお寿司でした。そのため、職員たちからは「この



皆様で記念撮影

お誕生会を成功させる」という意気込みが高まってまいります。進行表とプレゼントを確認していると、ご家族様がユニットに来られました。「ご家族が来る」ことは秘密だったので、ご本人たちは、とても喜ばれていました。そして、いつもとは違うこともあり、少々緊張した雰囲気の中でお誕生日パーティーが始まりました。ご入居者のお二人は、ご家族と一緒に大好きな「マグロ(チラシ寿司)」を大いに楽しめました。ご家族からも久しぶりに会うご本人の食欲旺盛な姿と、満面の笑顔に満足されていました。ご家族からはご入居者の昔のエピソードやご本人に対する思い、職員からはご本人の日頃の様子や会話などをお伝えし、時間が過ぎるのも忘れるくらい楽しいひと時でした。

施設に入居されてしまうと、ご家族様となかなか会えなくなってしまう「寂しい思い」をご入居者は抱えています。家で暮らしていれば《家族と共に誕生日を祝う》はずです。

施設では特別な事だけれど、家と同じく《家族と共に》を今後もできていけたらと思いました。

介護課主任 波多野 美治



久しぶりの、ご家族との食事



マグロちらし寿司が美味しそうです

北多摩南部医療圏図上訓練に参加しました

医療法人啓仁会 吉祥寺南病院 (東京都武蔵野市)

平成28年1月16日、北多摩南部医療圏図上訓練に参加してきました(多摩総合医療センターにて実施)。この訓練は、北多摩南部医療圏(武蔵野市を含む6市)の各行政機関、災害拠点病院、災害拠点連携病院(当院はこちらに該当)、そして、東京都が、災害時にどのように連携し、役割分担をするのか検証するために行われるものです。当院は、院長・看護師1名・事務職員2名が参加しました。

今回の訓練の想定状況は、18時に東京湾北部を震源とするM7.3、震度6強の地震が発生というものでした。行政機関と病院が連携し、傷病者の方々にいかに効率よく受け入れるかが問われました。

訓練は、各ブースにわかれ、EMIS(インターネットを介した災害時情報共有システム)・電話・FAX等を使用し、自院の状況報告、DMAT(災害派遣医療チーム)の派遣要請、入院患者様の転院要請、傷病者の方々の受け入れの可否といった情報のやり取りをするかたちで行われました。

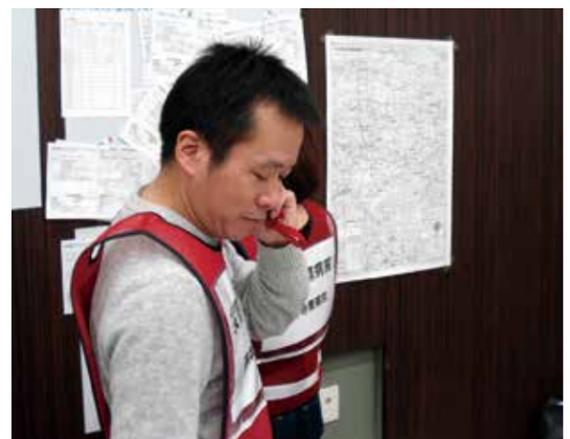
訓練時間4時間の中で、発生日から翌日の24時まで時間が経過していきます。刻々と流れる時間の中で、患者様の重症度、地域の被災状況、病院の状況が変化していきます。

訓練結果として当院は、26名の患者様を受け入れることができました。しかし、この結果は、病院のハード・ソフト面に不備がないと仮定した上でのものになります。今回の訓練を通じて、ライフラインの維持、職員の招集、外来患者様への対応等、いくつかの課題が見えてきました。職員一丸となって、この課題をひとつひとつ乗り越え、災害時にも社会に貢献できる病院を目指したいと思います。

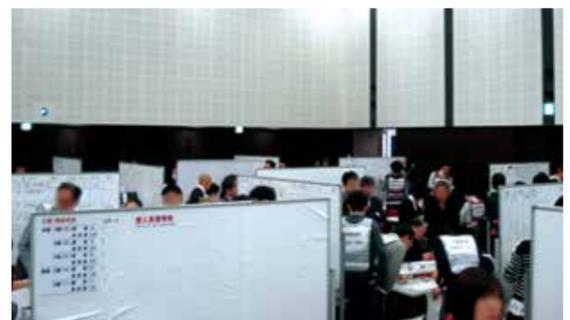
総務課主任 大川 潤也



受け入れた患者様のトリアージを行う医師と看護師



救護所よりの電話を受け、医師が患者様の受け入れ可否について回答



会場風景